



あまごい森



発行者 宮里 秀樹



教育目標

○たくましい子(体)

○よく考える子(知)

○心豊かな子(徳)

お弁当の日

南城市では、11月から3月のまでの間、毎月1回「弁当の日」を実施します。平成20年度より開始され、今年で17年目になります。保護者の皆様におかれましては、趣旨を十分ご理解頂き定着していることと思えます。ご家庭にとっては多少ご負担に思われる場合もあるかもしれません。今回は、「お弁当の日」について考えたいと思います。

「弁当の日」を実施する趣旨・目的

- (1) 弁当作りを通して親子のふれあいを深めるとともに、「食の自立」を促す。
- (2) 食への感謝、栄養のバランスなどを考えて家庭における「食育」の推進を図る。
- (3) 身近にある地元の素材や材料を弁当の献立に使用することにより、地産地消を積極的に促進する。

“弁当の日”は香川県のある学校で始まりました。“弁当の日”だから、給食の代わりに保護者が弁当を作る…と思われるかもしれませんが、その学校では子どもたちが弁当を作るのです。子どもたちが献立を考え、食材を買いに行き、朝早く起きて調理し、後片づけまで一人でします。当初、教職員や保護者からは「包丁を持たせると危険だ。」「うちの子どもはガスを使ったことがない。」などの反対意見が多かったそうです。しかし、その心配は杞憂に終わりました。早朝から、子どもは眠い目をこすり弁当を作ります。そして、友達と自分の作った弁当を見せ合うその笑顔は、弁当を作った達成感で満ち溢れていました。こうなると親に手伝ってもらった子どもたちも負けてはおれない。次回から、自分で作ろうと思ったのです。誰でもやればできることに気づきました。“できない”のではなく、“できる機会をなかった”だけのことかもしれません。

そんな弁当づくりの体験をつうじて、子どもたちは自己を肯定し、親への感謝の気持ちを持ち、食べ物と命の大切さに気づきはじめます。

そのように考えると「お弁当の日」の意義は大きいと思いませんか。現在、お家の人がつくるお弁当の日として捉えられているご家庭も多いのではないのでしょうか。ひとつ考え方を変えて「自分でつくるお弁当の日」に取り組んでみてはどうでしょうか。はじめは大変かもしれませんが、その分、子どもは成長します。はじめはお手伝いでもかまいません。できることを一つずつ増やしてみることもいいでしょう。高学年には自分の手作りのお弁当ができるようになるといいですね。

下記に、新聞記事より他市町村での「弁当の日」の取り組みについて紹介します。ご覧ください。

【伊江】高校進学など15歳で親元を離れる伊江村の子どもたちの自主自立を育む取り組みの一つとして、伊江村学力向上推進委員会家庭教育部会(玉城盛栄部長)は23日、子どもが作る「弁当の日」を実施した。村内2小学校の5・6年生と担任教諭、伊江中学校の全生徒と教職員は給食時間に自分が作った弁当を味わい、笑顔を見せた。学期ごと、年度内3回の取り組みで4年目を迎えた。

献立、買い出し、調理、片付け、帰宅後に弁当箱を洗うまで全ての行程を子どもたち自身が行う「弁当の日」に初挑戦した両小学校の5年生。登校時から「キャラ弁作ったよ」など弁当の話題で持ちきりだった。

西小学校の給食時間には、5年生と3年生、6年生と4年生が肩を並べ、5・6年生は自作の弁当を、3・4年生は給食を囲み、一緒の時間を過ごした。弁当作り初挑戦の●●君(5年)は、「(から揚げや卵焼きなど)朝4時に起きて全部自分で作った。やけどしちゃった」と笑顔で話した。

伊江小学校でも6年生と4年生が交流。4年生の●●君は「もらいたいぐらいおいしそう」と6年生の弁当をうらやましそうにのぞき込んでいた。

玉城部長は「高学年は自作の弁当を低学年に見せることでさらに自覚と誇りに満ち、弁当を見た低学年は憧れを体感する。村民の意識が定着したので次の段階にきた。環境づくりを継続したい」と述べた。

5年生は「弁当の日」を迎える前の家庭科の授業で、ゆでることを習得。弁当箱からはホウレンソウのおひたしやゆで卵が顔をのぞかせ、授業が実践で生かされていた。

貴重なご意見ありがとうございます。

今年度よりはじめてご意見箱ですが、毎回いろいろなご意見をいただきます。学校の当事者としてなかなか気づくことのできないこともあり、保護者・地域の皆様からの声に思わずはっとさせられることもあります。中には厳しいご意見もあつたりしますが、それはそれで貴重なご意見として真摯に受け止めます。学校長としては、保護者・地域等の視点も踏まえ、様々な角度から学校改善を進めて行きたいと思っています。ご意見のある方は、どうぞお気軽に投稿してください。

ご意見箱より

○**ピンクデーや人権の日などの取り組み**、素晴らしいと思っています。もう一つ取り組みに加えていただきたいことがあり、ご連絡いたします。娘が同じクラスの複数の男子に「女のくせに〇〇」などと揶揄われているようで、とても胸を痛めております。去年も同じようなことがあり、今の時代に女のくせにや男のくせになどという子供がいるのかと、正直驚きました。うちの娘だけでなく、他の女子もターゲットになっているそうです。今年もあまり状況は変わっていないようで、あまりにも時代にそぐわない揶揄いが子供達の間ではまだ行われていることに少なからず動揺しています。今は男女差別をするということが時代遅れ、セクハラであるという時代です。家庭ではもちろんそのように教育していますが、各家庭だけでなく、学校でも子供達にそのように啓発していただけると嬉しく思います。どうぞご検討のほどよろしくをお願いします。

ご指摘の件ですが「言葉の暴力」と、「多様性」の問題の2つの観点から捉えたいと思います。「言葉の暴力」については、普段の学校生活や道徳の時間において指導してまいります。何気なく発する言葉が、他人を気付つけてしまっていることに気づかせたいです。「多様性」についてですが、近年多様性の尊重が取り上げられるようになりました。学校においても重要な教育と位置づけています。多様性を尊重する、受け入れるということをもみんなが意識できるような教育を実施していきたいと思います。また、ご家庭を巻き込んだ啓発活動も検討してまいります。ご提案、ありがとうございました。

○前々から思っていることですが、**体育着をお揃いにしなければいけない理由がわかりません。**フード・紐なし、ズボンであること等制限を設ければ何でも良いと思います。
(水着と水泳帽はそうですね?)

週に2、3回の体育の時間のためにわざわざ指定のものを買うのはムダだと思っています。成長期なのですぐに小さくなってしまいますし。

体育の時間においては適切な服装に着替えることも指導の一つとしています。水着と違い体育着の場合は普段着との見分けがつきにくく、そのため統一されている方が指導がしやすいことがあげられます。また、その他に以下のメリットがあると考えます。

- ・運動会の演技等においてどうしても統一した体育着が必要になることもあります。
- ・地区陸上大会などの校外行事において、体育着での参加を指定されることもあります。
- ・本校では将来的に社会見学等の校外学習での着用も想定しています。

今回、長年使用していた体育着をリニューアルしました。価格も安く、耐久性にすぐれた体育着になっています。リニューアルした体育着を今後、より有効活用できるようにします。

ご意見はこちらから！

※ 学校教育（行事や学校生活、学校運営に関すること）について、ご意見をお聞かせください。校長直通メールです。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd8bgdNV4cqoRjjwwkQpEn7j2ok0S-b_vrWoKZx1qrZLLmd6A/viewform

本気で挑戦！ 大北っ子